

[交通アクセス]



- 大阪モノレール彩都線：『阪大病院前』下車
- JR東海道本線（京都線）：JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- Osaka Metro御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車



[阪大病院ニュース]
阪大病院ニュースをwebで公開しています。

阪大病院ニュース

 大阪大学医学部附属病院

阪大病院

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL. 06-6879-5111(代表)

30-06



Osaka University Hospital Outline

大阪大学医学部附属病院 要覧



Live Locally, Grow Globally

2018



OSAKA UNIVERSITY



理念

大阪大学医学部附属病院は、
良質な医療を提供すると共に、
医療人の育成と医療の発展に貢献する。

[医の先進性を志して149年]

1869(明治2)年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。
阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。



緒方 洪庵

基本方針

- 患者本位の安心・安全な全人的医療の提供
- 高度先進医療・未来医療の開発・実践
- 社会・地域医療への貢献
- 豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

患者さんの権利

- 人として尊重された医療を受けることができます。
- 安全で質の高い医療を受けることができます。
- 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- 個人の情報は保護されています。

患者さんの責務

- 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
- 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。

Contents [目次]

理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務	02
高度急性期医療と先進的医療の開発・研究を総合力と優れた安全の下で	03
病院長からのご挨拶	04
沿革	05
機構／職種別職員数／職員	07
資料	09
診療科別外来患者数／病棟フロア別入院患者数	
資料	11
臨床検査件数／手術件数／画像検査患者数／輸血検査件数／処方枚数／病理業務件数／リハビリテーション実施単位数／地域別入院患者数／治験件数／移植件数／院内がん登録件数／入院、外来抗がん剤調製件数／ドクターヘリ出動件数／分娩件数／血液浄化療法施行件数	
医療機関の承認・指定状況等	13
経理状況／未来医療の推進	14
構内建物配置図／階別配置図・病床数	15
トピックス(がんゲノム医療中核拠点病院／大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net))	17
写真で見る大阪大学医学部附属病院	18



●病院機能評価認定証
2016年1月に(公財)日本医療機能評価機構から最新基準(3rdG:Ver.1.1)に認定されました。



●ISO15189認定証
2015年9月に(公財)日本適合性認定協会から認定承認を受けました。



●臨床研究中核病院承認通知書
2015年8月に厚生労働省から承認を受けました。



●がんゲノム医療中核拠点病院指定書
2018年2月に厚生労働省から指定を受けました。



高度急性期医療と先進的医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 看護・医療技術領域の医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 未来医療開発部を軸に、臨床研究の拠点としての臨床研究支援体制の充実を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- がんゲノム医療の推進。

【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- 全国で最多の承認件数を誇る先進医療をさらに推進し、先進的な医療の開発を通じ、医療水準の向上を図る。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制（インバウンド）と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制（アウトバウンド）、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育（国際医療研究・教育）を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

大阪大学医学部附属病院

病院長 木村 正



阪大病院は、年間1万件を超える手術、2万5千件を超える抗がん剤治療、約60件の臓器移植などをはじめとする多数の高度急性期医療をすべての診療科・部門が一丸となって行っています。厚生労働省が定める先進医療を日本で最も多く実施するとともに、多数の治験や臨床研究を展開し、新しい医療の開発、医学の進歩に貢献してきました。この長年の取り組みが評価され、平成27年に日本で最初に「臨床研究中核病院」として認定された3病院になりました。

大学病院は教育病院でもあるので、何となく「場合によっては医療者への教育が優先されるのではないか?」というような不安をお持ちの方が日本にはおられます。ところが外国では大学病院は最も信頼される基幹病院です。大学病院は、正しい教育をしなければならないがゆえに、根拠がない、個人の思い込みや経験のみに頼る医療ができないこと。また、新しいことに挑戦する時もきちんとしたルールに基づき組織立って行うこと。さらに、あらゆる医療分野を教えねばならないので、すべての部門が採算性と関係なくきちんと機能し、想定外の事態が起こっても、誰かが専門的知識を持って対応できること。これらが信頼をいただける理由で、本院はまさにその機能を有しています。

高齢化社会の今、患者さんが持っている病気が一つではなくなっています。治さなければならない病気には余病（合併症）がついて回り、一人の医師、一つの診療科、一つの分野に特化した病院では対応しきれないことが増えています。本院は、総合力というメリットをすべての診療科・部門が連携によって最大限に発揮し、患者さんの治療に、また新しい医療・医学のさらなる発展に一丸となって努力して参る所存です。

医療において「新しいこと」「難しいこと」を行う際に、今の社会で最も大事なことは「安全」です。本院は、全国の国立大学附属病院医療安全管理協議会の事務局の役割を担っており、日本における組織だった医療安全システムのリーダー的な病院です。世の中に「ゼロリスク」はありません。患者さんにリスクをご理解いただいたうえで、本院が持つ総合力を最大限に生かし、そのリスクを最小にする努力を常に行い、患者のみなさんに安心・安全な医療の提供に力を尽くしていきたいと思っております。

吹田の地にやってきた25年前は、中之島時代に比べて「とてつもなく大きな病院になったな。」と思っておりましたが、この間、医師、看護師をはじめとするメディカルスタッフの数は倍以上になり、大変手狭になりました。文部科学省のご許可をいただければ、再開発（増築・建て替え）をしたいと思っております。患者のみなさんには、大変狭い中で不便をおかけいたしますが、職員一同、全力で診療に当たりますので、どうかよろしくごお願い申し上げます。

沿革

History

1838(天保9)年	蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。
	
1869(明治2)年	新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱により大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王寺区上本町)に文部省直轄大坂病院(緒方一族主宰)を設置した。
1870(明治3)年	文部省は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。
1871(明治4)年	再び文部省直轄となった。
1872(明治5)年	文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が廃止された。
1873(明治6)年	2月 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設し、教授局を付設した。
1879(明治12)年	3月 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。
	
1880(明治13)年	3月 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府立大阪医学校を設立した。
1888(明治21)年	1月 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校名を大阪医学校と改称した。
1893(明治26)年	3月 大阪医学校産婆養成所が開設された。
1898(明治31)年	4月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。
1903(明治36)年	10月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称された。

1915(大正4)年	10月 府立大阪医科大学と改称した。
1919(大正8)年	11月 大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪医科大学となって病院もこれに準じた。
1924(大正13)年	10月 大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と改称した。(大阪市北区堂島浜通)
	
1931(昭和6)年	5月 勅令第67号により大阪帝国大学が創設され、大阪医科大学を移管して医学部と改称された。
	
1939(昭和14)年	1月 東館が増築された。
1943(昭和18)年	4月 北区堂島浜通から福島区堂島浜通に地名変更。
1945(昭和20)年	6月 看護婦養成所を厚生女子部と改称した。
1947(昭和22)年	10月 政令第204号により大阪帝国大学は大阪大学に改められた。
1949(昭和24)年	5月 国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属医院に改められた。
1951(昭和26)年	4月 大阪大学医学部附属病院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。
1952(昭和27)年	4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校及び大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。
1953(昭和28)年	8月 大阪大学歯学部附属病院の設置(昭和26年3月)に伴い、医学部附属病院の診療科から歯科が分離された。
1963(昭和38)年	4月 大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護学校と改称した。
1964(昭和39)年	3月 本院改築第1期工事が完成した。
1965(昭和40)年	4月 大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置された。

1966(昭和41)年	4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科が設置された。
	12月 本院改築第2期工事が完成した。
1968(昭和43)年	3月 大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。
	4月 大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。
1969(昭和44)年	4月 大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エックス線技師学校が廃止された。
1970(昭和45)年	10月 本院改築第3期工事が完成した。
1971(昭和46)年	3月 給食厨房棟が完成した。
1973(昭和48)年	8月 本院改築第4期工事が完成した。
	
1989(平成元年)年	3月 吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。
1993(平成5)年	9月 中之島キャンパス(大阪市福島区)から吹田キャンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。
	
1993(平成5)年	10月 大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。
1994(平成6)年	11月 特定機能病院に承認された。
1995(平成7)年	1月 1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。
	3月 ポジトロン核医学診断システム棟が完成した。
1996(平成8)年	3月 大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。
1997(平成9)年	3月 大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。
	7月 心臓移植実施施設に認定された。

1998(平成10)年	4月 肺移植実施施設に認定された。
1999(平成11)年	2月 臓器移植実施施設に認定された。 移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。
	12月 小腸移植実施施設に認定された。 病棟屋上にヘリポートが完成した。
2000(平成12)年	4月 診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。
	5月 肝臓移植実施施設に認定された。
2001(平成13)年	1月 日本医療機能評価機構から認定を受けた。
2004(平成16)年	4月 国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。
2006(平成18)年	1月 日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
2008(平成20)年	1月 大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。
	
2009(平成21)年	4月 地域がん診療連携拠点病院に認定された。
2011(平成23)年	1月 日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
2012(平成24)年	6月 移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移植を実施した。
2015(平成27)年	3月 質の高い倫理審査委員会設置病院として認定された。
	8月 臨床研究中核病院に認定された。
	9月 オンコロジーセンター棟が完成した。 臨床検査のISO認定を受けた。
2016(平成28)年	1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。
	3月 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)に認証された。
	9月 ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。
2018(平成30)年	2月 がんゲノム医療中核拠点病院に指定された。

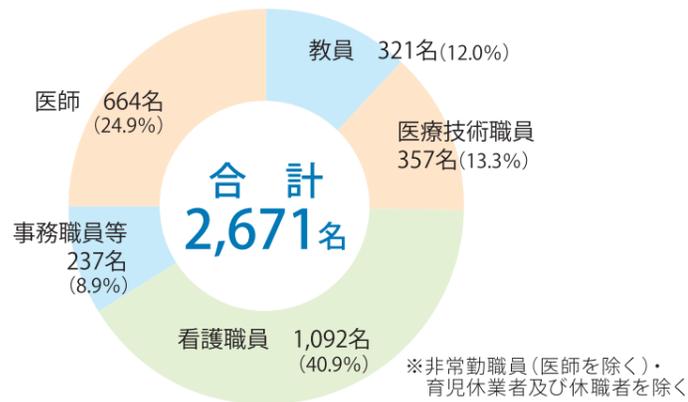
機構／職種別職員数／職員 (2018年5月1日現在)

Organization Chart／Number of Staff／Faculty and Administrative Officers

[機構]



[職種別職員数]



[職員]

管理者

病院長	教授	木村 正	病院長補佐 (小児・周産期・救急医療担当)	教授	大 藪 惠 一
副病院長 (人事労務・医療安全担当)	教授	竹原 徹 郎	(研究・臨床研究中核病院担当)	教授	坂 田 泰 史
(再開発・がん診療担当)	教授	土 岐 祐 一 郎	(中央診療施設担当)	教授	富 山 憲 幸
(教育・診療体制・財務担当)	教授	樂 木 宏 実	(広報・中期計画担当)	教授	野 々 村 祝 夫
(ホスピタリティ担当)	看護部長	越 村 利 惠	(医療情報・地域医療・外部評価担当)	教授	松 村 泰 志
			(女性支援・ダイバーシティ担当)	教授	中 島 和 江
			(経営・組織改革担当)	事務部長	延 原 寿 男

診療部門

●内科系科	部門長(教授)	下 村 伊 一 郎	●外科系科	部門長(教授)	奥 山 宏 臣
循環器内科	科長(教授)	坂 田 泰 史	心臓血管外科	科長(教授)	澤 芳 樹
腎臓内科	科長(教授)	猪 阪 善 隆	呼吸器外科	科長事務取扱(病院教授)	新 谷 康
消化器内科	科長(教授)	竹 原 徹 郎	消化器外科(下部消化管、肝、胆)	科長(教授)	森 正 樹
糖尿病・内分泌・代謝内科	科長(教授)	下 村 伊 一 郎	消化器外科(上部消化管、膵)	科長(教授)	土 岐 祐 一 郎
呼吸器内科	科長(病院教授)	木 田 博	乳腺・内分泌外科	科長(教授)	野 口 眞 三 郎
免疫内科	科長(教授)	熊ノ郷 淳	小児外科	科長(教授)	奥 山 宏 臣
血液・腫瘍内科	科長(教授)	金 倉 讓	病理診断科	科長(教授)	森 井 英 一
老年・高血圧内科	科長(教授)	樂 木 宏 実			
漢方内科	科長(特任教授(常勤))	萩 原 圭 祐			
総合診療科	科長(教授)	樂 木 宏 実			

●感覚・皮膚・運動系科	部門長(教授)	猪 原 秀 典
眼科	科長(教授)	西 田 幸 二
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長(教授)	猪 原 秀 典
整形外科	科長(教授)	吉 川 秀 樹
皮膚科	科長事務取扱(病院教授)	金 田 眞 理
形成外科	科長事務取扱(准教授)	久 保 盾 貴
リハビリテーション科	科長(教授)	吉 川 秀 樹
●脳神経精神科	部門長(教授)	池 田 学
神経内科・脳卒中科	科長(教授)	望 月 秀 樹
神経科・精神科	科長(教授)	池 田 学
脳神経外科	科長(教授)	貴 島 晴 彦
麻酔科	科長(教授)	藤 野 裕 士
●女性・母子・泌尿生殖科	部門長(教授)	野 々 村 祝 夫
産科	科長(教授)	木 村 正 一
婦人科	科長(教授)	木 村 正 一
小児科	科長(教授)	大 藪 惠 一
泌尿器科	科長(教授)	野 々 村 祝 夫
●放射線科	部門長(教授)	富 山 憲 幸
放射線診断・IVR科	科長(教授)	富 山 憲 幸
放射線治療科	科長(教授)	小 川 和 彦
核医学診療科	科長(教授)	畑 澤 順

中央診療施設

[管理部門]

●材料部	部長(病院教授)	高 階 雅 紀
●病理部	部長(教授)	森 井 英 一
●輸血部	部長(病院教授)	富 山 佳 昭
●医療情報部	部長(教授)	松 村 泰 志
●感染制御部	部長(教授)	朝 野 和 典
●中央クオリティマネジメント部	部長(教授)	中 島 和 江
●臨床工学部	部長(病院教授)	高 階 雅 紀
●保健医療福祉ネットワーク部	部長(教授)	樂 木 宏 実
●移植医療部	部長(教授)	奥 山 宏 臣
●栄養マネジメント部	部長(教授)	下 村 伊 一 郎
●サブライセンター	センター長(病院教授)	高 階 雅 紀
●卒後教育開発センター	センター長(教授)	和 佐 勝 史
●看護部キャリア開発センター	センター長	越 村 利 惠
●高難度新規医療技術審査部	部長(教授)	土 岐 祐 一 郎
●未承認新規医薬品等診療審査部	部長(教授)	竹 原 徹 郎

[中央診療部門]

●臨床検査部	部長(病院教授)	日 高 洋 人
●手術部	部長(病院教授)	南 正 人
●放射線部	部長(教授)	富 山 憲 幸
●集中治療部	部長(教授)	藤 野 裕 士
●リハビリテーション部	部長(教授)	吉 川 秀 樹
●総合診療部	部長(教授)	樂 木 宏 実
●血液浄化部	部長(教授)	猪 阪 善 隆
●遺伝子診療部	部長(教授)	望 月 秀 樹
●化学療法部	部長(病院教授)	水 木 満 佐 央
●放射線治療部	部長(教授)	小 川 和 彦
●総合周産期母子医療センター	センター長(教授)	大 藪 惠 一

●高度救命救急センター	センター長(教授)	嶋 津 岳 士
●内視鏡センター	センター長(教授)	土 岐 祐 一 郎
●超音波検査センター	センター長(教授)	坂 田 泰 史

[連携診療部門]

●脳卒中センター	センター長(教授)	望 月 秀 樹
●前立腺センター	センター長(教授)	野 々 村 祝 夫
●睡眠医療センター	センター長(教授)	池 田 学
●疼痛医療センター	センター長(教授)	藤 野 裕 士
●生殖医療センター	センター長(教授)	野 々 村 祝 夫
●ハートセンター	センター長(教授)	澤 芳 樹
●小児医療センター	センター長(教授)	奥 山 宏 臣
●オンコロジーセンター	センター長(教授)	土 岐 祐 一 郎
●呼吸器センター	センター長(病院教授)	木 田 博
●てんかんセンター	センター長(教授)	貴 島 晴 彦
●消化器センター	センター長(教授)	竹 原 徹 郎
●IVRセンター	センター長(講師)	大 須 賀 慶 悟
●胎児診断治療センター	センター長(教授)	奥 山 宏 臣
●難病医療推進センター	センター長(教授)	大 藪 惠 一
●子どものこころの診療センター	センター長(教授)	大 藪 惠 一
●がんゲノム医療センター	センター長(教授)	森 正 樹
●糖尿病センター	センター長(教授)	下 村 伊 一 郎

薬剤部	部長(病院教授)	三 輪 芳 弘
	副部長	門 脇 裕 子
	副部長	勝 浦 正 人
	副部長	山 本 智 也

看護部	部長	越 村 利 惠
	副部長	谷 浦 葉 子
	副部長	岩 崎 朋 之
	副部長	佃 順 子
	副部長	鍋 谷 佳 子

医療技術部	部長	前 田 育 宏
	副部長	藤 埜 浩 一
	副部長	橋 田 剛 一
	副部長	南 茂

未来医療開発部	部長(教授)	西 田 幸 二
	副部長(教授)	朝 野 和 典
	副部長(教授)	松 村 泰 志
●未来医療センター	センター長(病院教授)	名 井 陽
●臨床研究センター	センター長(准教授)	山 本 洋 一
●データセンター	センター長(特任教授(常勤))	山 田 知 美
●国際医療センター	センター長(教授)	中 田 研

事務部	部長	延 原 寿 男
●総務課	課長	久 保 公 四 郎
●災害対策室	室長	久 保 公 四 郎
●管理課	課長	安 岡 浩 憲
●教育研究支援課	課長	新 美 博 規
●医事課	課長	岩 谷 好 和
●患者サービス推進室	室長	岩 谷 好 和
●再開発企画整備室	室長	安 岡 浩 憲

[診療科別外来患者数]

区分	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)	平均通院日数 (単位:日)
■総合診療科	4,645	19.0	9.3
■循環器内科	29,084	119.2	43.2
■腎臓内科	15,381	63.0	85.0
■消化器内科	44,935	184.2	50.5
■糖尿病・内分泌・代謝内科	41,815	171.4	89.5
■呼吸器内科	13,637	55.9	37.3
■免疫内科	19,708	80.8	40.9
■血液・腫瘍内科	19,691	80.7	60.2
■老年・高血圧内科	14,642	60.0	50.1
■心臓血管外科	11,489	47.1	32.6
■呼吸器外科	6,035	24.7	33.7
■消化器外科	30,246	124.0	40.0
■乳腺・内分泌外科	16,460	67.5	34.7
■小児外科	5,390	22.1	19.3
■眼科	53,921	221.0	14.5
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	28,948	118.6	18.8
■整形外科	32,588	133.6	20.2
■皮膚科	24,952	102.3	19.6
■形成外科	7,932	32.5	15.8
■神経内科・脳卒中科	20,941	85.8	31.9
■神経科・精神科	21,557	88.3	35.0
■脳神経外科	13,390	54.9	22.4
■麻酔科	12,413	50.9	36.1
■産科・婦人科	28,904	118.5	13.8
■小児科	24,245	99.4	31.9
■泌尿器科	22,323	91.5	34.7
■放射線診断・IVR科			
■放射線治療科	15,754	64.6	97.2
■核医学診療科			
■高度救命救急センター	1,241	5.1	29.5
■歯科	4,352	17.8	3.8
合計	586,619	2,404.2	26.8

[外来患者延数の推移]



[一日平均患者数の推移]



[平均通院日数の推移]



[病棟フロア別入院患者数]

西病棟						東病棟					
階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	1日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)	階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	1日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	14,443	39.6	15.1	80.6	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	16,509	45.2	17.4	88.7
12	■女性・母子・泌尿生殖器科 (泌尿器科)	16,971	46.5	20.2	96.9	12	■内科系科 (糖尿病・内分泌・代謝内科/免疫内科)	16,159	44.3	21.2	83.5
11	■外科系科 (消化器外科)	16,725	45.8	20.2	91.6	11	■内科系科 (消化器内科)	16,177	44.3	13.2	88.6
10	■外科系科 (消化器外科/共通)	17,794	48.8	18.6	92.0	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	14,730	40.4	43.4	80.8
9	■外科系科 (心臓血管外科)	17,130	46.9	17.8	95.8	9	■内科系科 (循環器内科)	17,110	46.9	14.6	93.8
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	14,644	40.1	11.7	80.2	8	■脳神経精神科 (神経内科・脳卒中科) ■内科系科 (老年・高血圧内科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科)	15,389	42.2	16.7	84.3
7	■感覚・皮膚・運動系科 (眼科)	18,310	50.2	10.2	94.6	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	15,672	42.9	15.4	87.6
6	■外科系科 (小児外科/外科共通)	11,472	31.4	9.6	78.6	6	■女性・母子・泌尿生殖器科 (小児科)	14,761	40.4	12.3	84.3
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	17,153	47.0	22.6	92.1	5	■女性・母子・泌尿生殖器科 (産婦人科)	15,761	43.2	10.6	86.4
4	■集中治療部	2,831	7.8	16.6	86.2	4	■集中治療部	5,413	14.8	18.5	74.2
3	■総合周産期 母子医療センター	12,304	33.7	5.5	88.7	3	■内科系科 (腎臓内科/内科共通) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	13,536	37.1	12.0	86.2
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	11,557	31.7	37.4	60.9
						1	■高度救命 救急センター	6,105	16.7	6.0	83.6

合計	入院患者延数 (単位:人)	338,656	一日平均入院患者数 (単位:人)	927.8	平均在院日数 (単位:日)	14.6	病床稼働率 (単位:%)	85.4
----	------------------	---------	---------------------	-------	------------------	------	-----------------	------

[入院患者延数の推移]



[一日平均入院患者数の推移]



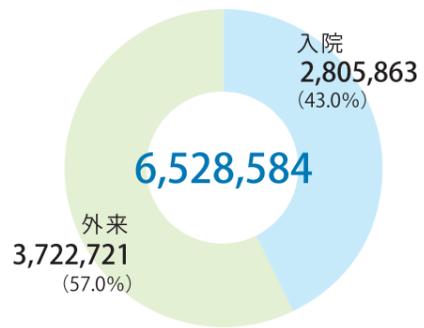
[平均在院日数の推移]



[病床稼働率の推移]



[臨床検査件数] (単位: 件)



[手術件数] (単位: 件)

■心臓血管外科	1,127
■呼吸器外科	314
■消化器外科	806
■乳腺・内分泌外科	331
■小児外科	516
■眼科	3,383
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	730
■整形外科	780
■皮膚科	260
■形成外科	498
■神経科・精神科	189
■脳神経外科	472
■麻酔科	86
■産科・婦人科	898
■泌尿器科	553
■高度救命救急センター	60
■骨髄採取(血液・腫瘍内科、小児科)	7
■その他(循環器内科、消化器内科、小児科、放射線科)	91
合計	11,101

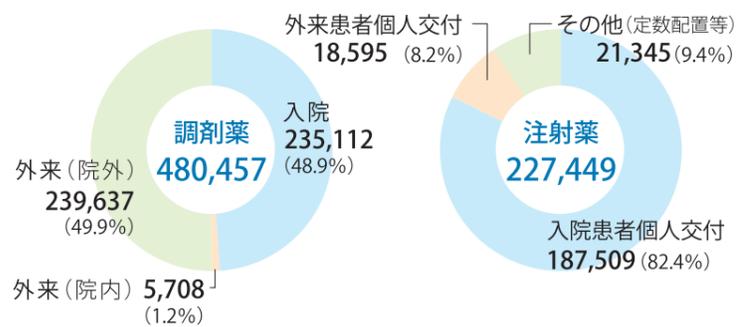
[画像検査患者数] (単位: 人)

区分	入院患者数	外来患者数	合計
■一般撮影	67,412	56,187	123,599
■特殊撮影	26,019	33,928	59,947
■核医学検査	1,225	4,434	5,659
合計	94,656	94,549	189,205

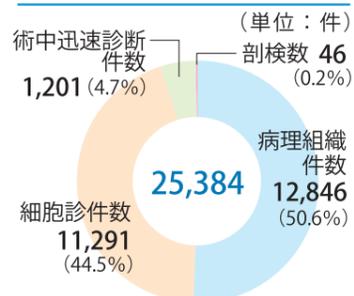
[輸血検査件数] (単位: 件)

■血液検査 ABO,Rho(D)	20,759
■その他血液型	62
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	15,860
■交差適合試験	15,267
■抗血小板抗体検査	364
■寒冷凝集反応	110
■直接クームス試験	328
■間接クームス試験	266
合計	53,016

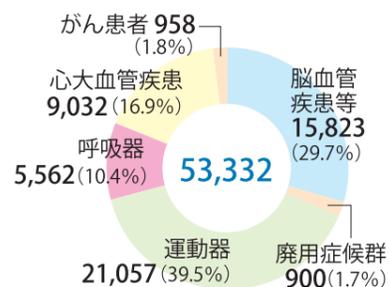
[処方枚数] (単位: 枚)



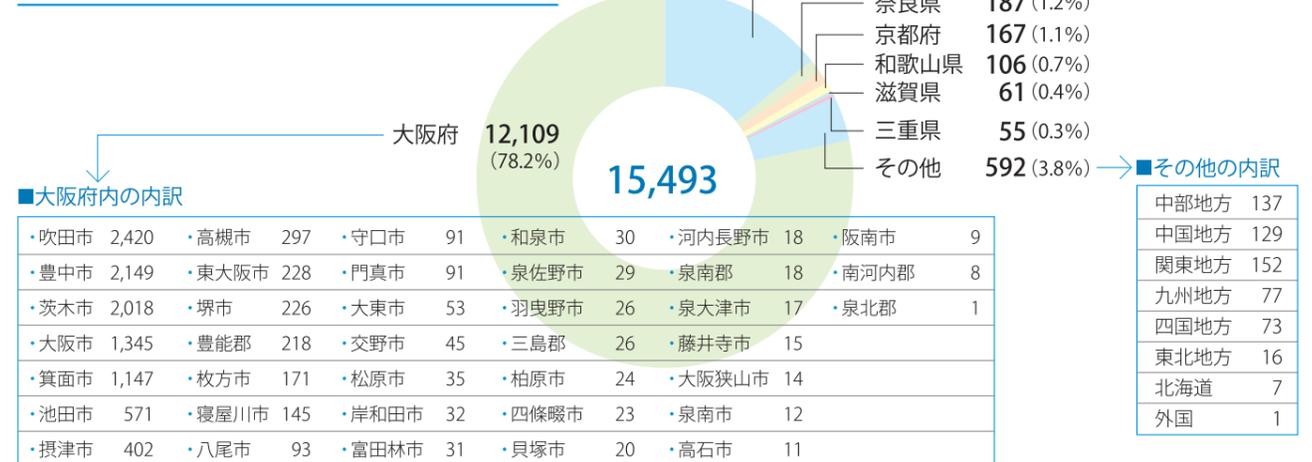
[病理業務件数] (単位: 件)



[リハビリテーション実施単位数]



[地域別入院患者数] (単位: 人)

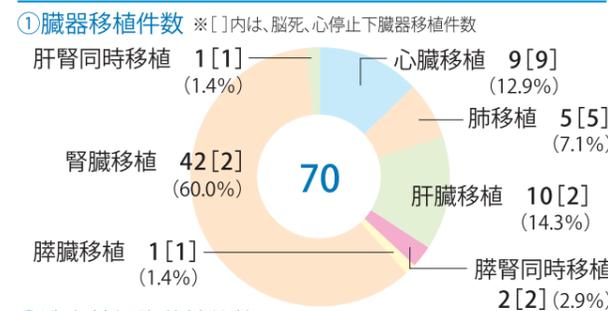


[治験件数] (単位: 件)

	総件数	総症例数	
■医薬品	新規	73	271
	継続	177	864
	小計	250	1,135
■医療機器	新規	5	48
	継続	22	314
	小計	27	362
総計	*277	*1,497	

※医師主導治験23件429症例を含む

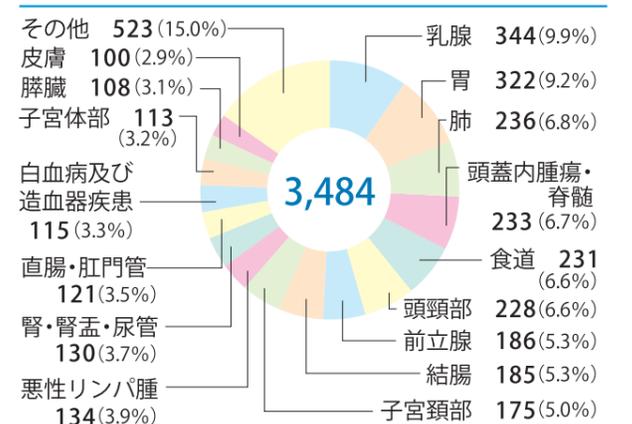
[移植件数] (単位: 件)



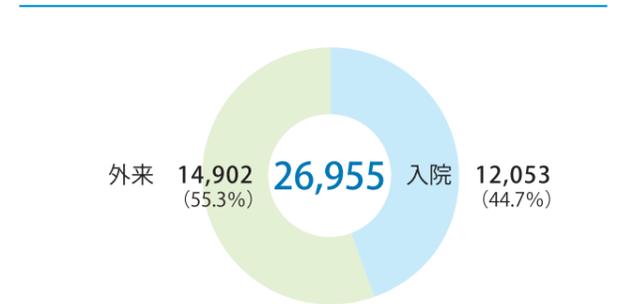
②造血幹細胞移植件数

区分	成人	小児
■血縁者間移植	8	1
■非血縁者間移植	24	4
・骨髄バンク	24	4
・臍帯血	0	0
■自家移植	6	1
合計	38	6

[院内がん登録件数] ※2016年診断分 (単位: 件)



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位: 件)



[ドクターヘリ出動件数] 147件

[分娩件数] 610件

[血液浄化療法施行件数] 4,666件

医療機関の承認・指定状況等 (2018年5月1日現在)

Legal Authorization of Medical Services

[医療機関の承認]

- 臨床修練指定病院
- 医療法第7条第1項による開設許可(承認)
- 健康保健法による(特定承認)保険医療機関
- 生活保護法による医療機関
- 労働者災害補償保険法による医療機関
- 原爆医療法による一般医療法
- 原爆医療法による認定医療法
- 母子保健法による妊婦乳児健康診査
- 母子保健法による養育医療
- 戦傷病者特別援護法による厚生医療
- 特定機能病院の名称の使用承認
- エイズ治療拠点病院
- 大阪府災害拠点病院
- 感染症予防法による指定届出機関(基幹定点)
- 大阪府三次救急医療機関
- 大阪府肝炎専門医療機関
- 覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関
- 障害者自立支援法による更生医療
- 障害者自立支援法による育成医療
- 障害者自立支援法による精神通院
- 入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
- 大阪府総合周産期母子医療センター指定
- 医療観察法による指定通院
- 大阪府肝疾患診療連携拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関
- 難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
- 臨床教授等指定病院
- 医療法上の臨床研究中核病院
- がんゲノム医療中核拠点病院 ※太字は大阪府による承認指定

[先進医療]

- バクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)&及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法
上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん
- ベベルミノゲンベベルプラスミドによる血管新生療法
閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)
- FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断
不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)
- コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。)
- 周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺癌(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)
- 11C標識メチオニンをを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍
(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)
- 角膜ジストロフィーの遺伝子解析
- 自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療
胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷学会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。)
- リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群
(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難病性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)
- 放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法
初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)
- 11C標識メチオニンをを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。)
- 経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)
- 術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法
切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)
- テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)
- 自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術 僧帽弁閉鎖不全症(感染性心内膜炎により僧帽弁両尖が破壊されているもの又は僧帽弁形成術を実施した日から起算して六月以上経過した患者(再手術の適応が認められる患者に限る。))に係るものに限る。)
- 腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術
- 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術

経理状況／未来医療の推進

Finance／Translational Research

[収入と支出] (2017年度) ※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入 (単位：千円)		支出 (単位：千円)	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	3,622,662	人件費	15,212,843
附属病院収入	38,130,788	医療費	17,890,570
その他収入	660,698	債務償還経費	2,317,257
		業務費	6,993,478
合計	42,414,148	合計	42,414,148

[受託研究等外部資金及び施設費]

外部資金受入額 (単位：千円)		施設費 (単位：千円)			
区分	金額	区分	金額		
受託研究等収入	受託研究	156,089	設備整備	超音波診断装置	80,000
	治験	727,485		手術支援システム	281,000
	共同研究	76,758	合計	361,000	
	共同研究	76,758			
受託事業等収入	受託実習生	3,889			
	病院研修生	2,599			
	その他	6,867			
	共同事業	19,800			
寄付金収入	114,125				
補助金等収入	649,630				
合計	1,757,242				

トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ(TR)を実践推進していきます。

- TRの実施件数(2017年度)
- 新規TR実施件数：71件
- 臨床研究新規許可件数：4件

診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療と教育のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

インバウンド基盤整備

- 海外からの患者受入れ体制の整備
- 海外からの医療研修受入れの推進
- 関西での国際医療ネットワーク形成

アウトバウンド

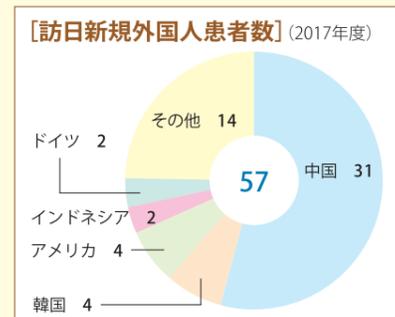
- 世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- 国際共同治験・共同研究の推進
- 日本の医療システムの海外進出

国際医療教育・研究

- 大阪大学内外の研究・教育施設との協力による国際医療教育・研究の推進

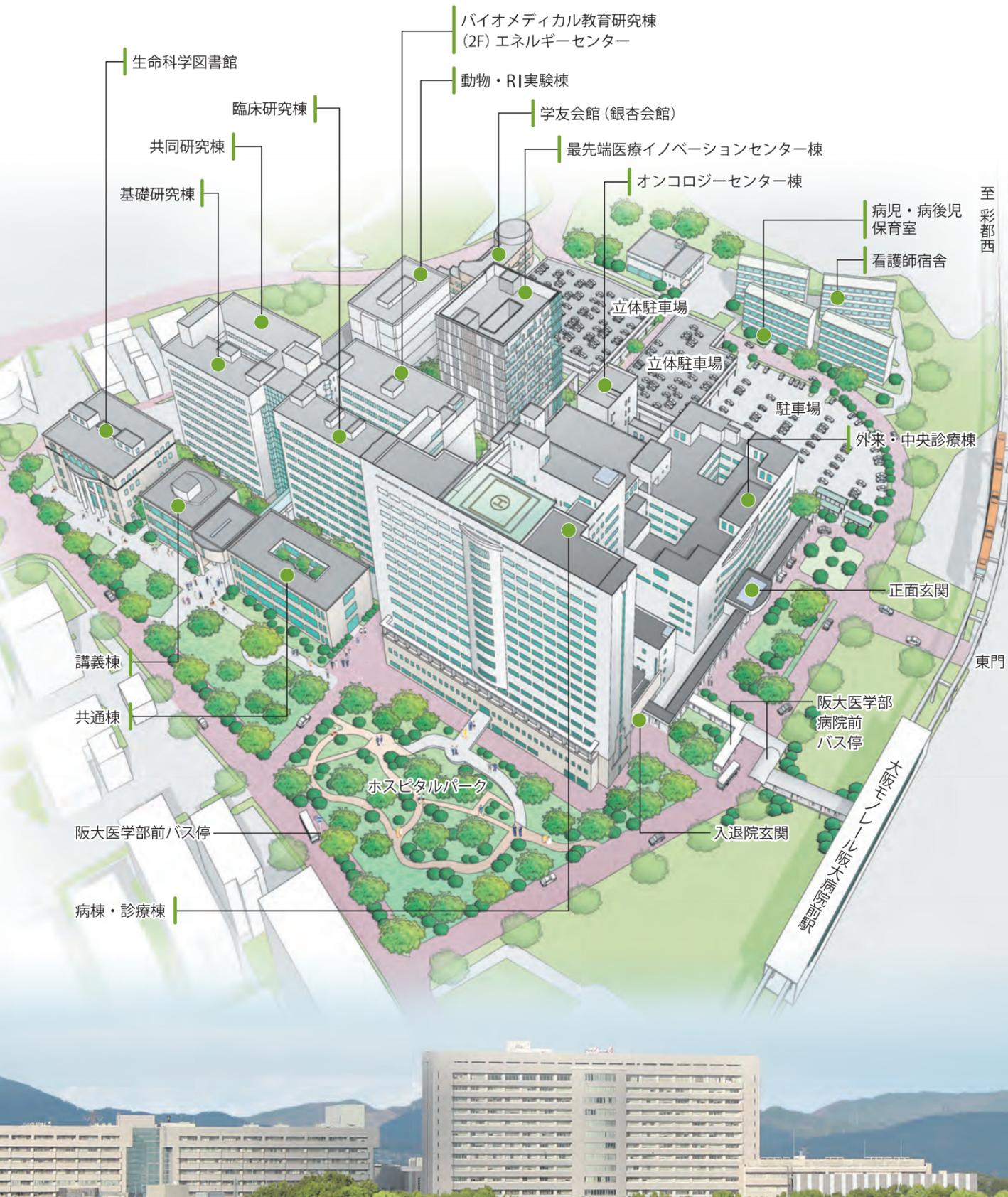
国際機能評価

- 国際病院評価機構(JCI)受審に向けた準備。
- 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)を受審し、認証された。(2016年3月)
- ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。(2016年9月)



構内建物配置図／階別配置図・病床数

Buildings Layout / Building Directory and Number of Beds



[病棟・診療棟 (病床数 1,086床) ※フェーズI病床(10床)を含む]

西病棟		東病棟	
14階	レストラン、休憩所、会議室、中央クオリティマネジメント部		
13階	脳神経外科 50床	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 51床	
12階	泌尿器科 48床	糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科 53床	
11階	[消化器センター] 消化器外科 50床	[消化器センター] 消化器内科 50床	
10階	[消化器センター] 消化器外科、共通 53床	血液・腫瘍内科 49床	
9階	[ハートセンター] 心血管外科、CVCU 49床	[ハートセンター] 循環器内科、CCU 50床	
8階	乳腺・内分泌外科、皮膚科、形成外科 50床	神経内科・脳卒中科、老年・高血圧内科 50床	
7階	眼科 53床	[呼吸器センター] 呼吸器内科、呼吸器外科 49床	
6階	[小児医療センター] 小児外科、心血管外科、整形外科、外科共通 40床	[小児医療センター] 小児科 48床	
5階	整形外科 51床	産科・婦人科 50床	
4階	集中治療部 (ICU) 9床	集中治療部 (ICU) 20床	
3階	[総合産産期母子医療センター] 周産期病床、MFICU、NICU、GCU 38床	腎臓内科、放射線科 (RI病室)、麻酔科、内科共通 心臓血管外科、高度救命救急センターバックベッド 43床	
2階	看護部、血液浄化部	神経科・精神科 52床	
1階	リハビリテーション部、郵便局、ローソン、食堂 理容室、美容室、専門書店等	高度救命救急センター 医療情報部、入退院センター、守衛室、防災センター 20床	
B1階	栄養管理室、厨房、霊安室	薬剤部、医事課事務室	

[外来・中央診療棟]

中央診療施設等	外 来	その他
4階 手術部、集中治療部、移植医療部、総合診療部、感染制御部、卒後教育開発センター、看護部キャリア開発センター	フェーズI病床 10床	ボランティア室、院内学級職員室、シミュレーション室、医事課事務室
3階 材料部、病理部、輸血部、臨床工学部、前立腺センター、麻酔科術前外来	泌尿器科、産科・婦人科、神経科・精神科、外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、形成外科	患者図書コーナー、相談室、治験コーナー・臨床研究相談窓口
2階 臨床検査部、内視鏡センター	内科2階西、内科2階東、糖尿病ケア・看護、麻酔科、小児科、小児外科、脳神経外科	授乳室
1階 放射線部、保健医療福祉ネットワーク部、薬剤部	眼科、整形外科、リハビリテーション科、内科1階・総合診療外来、禁煙外来、漢方外来、補完医療外来、治験専門外来、感染制御、セカンドオピニオン	総合案内、外来受付カウンター、予約変更センター、ATM、診断書等受付窓口、院外処方せんFAX送信コーナー、患者相談室、栄養相談室、相談室、医事課事務室、コインロッカー
B1階 放射線部、サプライセンター、遺伝子診療部、放射線治療部	放射線科、緩和ケア	歯科治療室、中央病歴室

[医学部・同附属病院共通棟]

3階	医学部長室、病院長室、事務部長室 会議室等
2階	病院 総務課事務室 病院 管理課事務室
1階	病院 管理課事務室 医学部 事務室

[オンコロジーセンター棟]

5階	がん相談部門 がんゲノム医療センター
4階	がん相談部門 薬剤部 (オンコロジーセンター室)
3階	化学療法部門
2階	化学療法部門
1階	受付 診察部門 採血・検査部門
L階	スタッフエリア 設備部門

[最先端医療イノベーションセンター棟]

4階	未来医療開発部 病院 教育研究支援課事務室
----	-----------------------

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の研究拠点(地上9階・地下1階建て)

2017年度(2017年4月~2018年3月)の動き

Topics

Topics 1

がんゲノム医療中核拠点病院に指定。

本院は、平成30年2月16日付けで、がんゲノム医療中核拠点病院に指定されました。これは、全国的ながんゲノム医療の体制構築のために、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関に指定されるものです(本院を含む国内11病院が指定)。



[がんゲノム医療中核拠点病院指定書]

がんゲノム医療とは、がんの腫瘍部及び正常部のゲノム情報を用いて治療の最適化・予後予測・発症予防を行う医療であり、本院では「がんゲノム医療センター」を中心に院内完結型のがんゲノム医療に取り組んでいます。

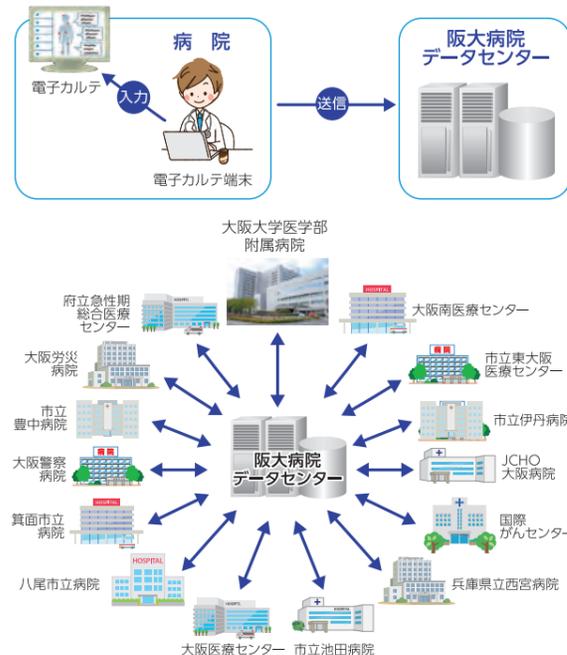
がん遺伝子パネル検査を行うにあたり、タカラバイオ社との連携推進協定のもと、オンコロジーセンター5階に遺伝子検査室(クリニカルシーケンス・ラボラトリーズ)を設置しました。現在CAP-LAP認定を目指しており、国際基準の品質管理体制での検査を実施していきます。その他、オンコロジーセンターにはがんゲノム医療にかかわるほぼ全ての部門が集約されています。

本院は、病院全体で専門性の高い人材育成や教育にも力を入れており、今後はがんゲノム医療連携病院と連携して、効果的かつ効果的なゲノム医療の実装を目指し、がんゲノム医療の全国的な体制構築と推進に貢献してまいります。

Topics 2

多施設共同臨床研究ネットワーク(大阪臨床研究ネットワーク:OCR-net)の構築。

現状の標準的な医療に対して、より効果的で安全な医療を見出す活動(臨床研究)によって、医療が進歩していきます。臨床研究で正しい結論を導くためには、適切にデザインされた方法で行う必要があり、症例数の確保のために多施設が共同して症例データを集める必要があります。また、患者さんの自己決定権を尊重し、患者さんの安全を第一とした方法で実施する必要があります。適切に臨床研究を実施するためには、専門集団による組織基盤が必要です。阪大病院は臨床研究中核病院に指定され、臨床研究体制を整備し、質の高い臨床研究の推進を主導する任務を担っています。そこで、関西圏の医療施設と連携して大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net)を立ち上げ、平成30年4月時点で24の病院と協定を締結しております。その中で、臨床研究に携わる職員の能力向上を目的とした臨床研究講習会の実施、臨床研究の企画・立案の支援、モニタリングの支援、データセンターによるデータマネージメント、認定臨床研究審査委員会の設置、更に、病院の電子カルテをネットワークで結び、効率的にデータ集積を可能とするICT基盤の整備を行っています。OCR-netの活動を通じて、多くの質の高い臨床研究を実施し、医療の更なる発展に貢献してまいります。



■大阪臨床研究ネットワーク: OCR-net イメージ図



[エントランスホール]



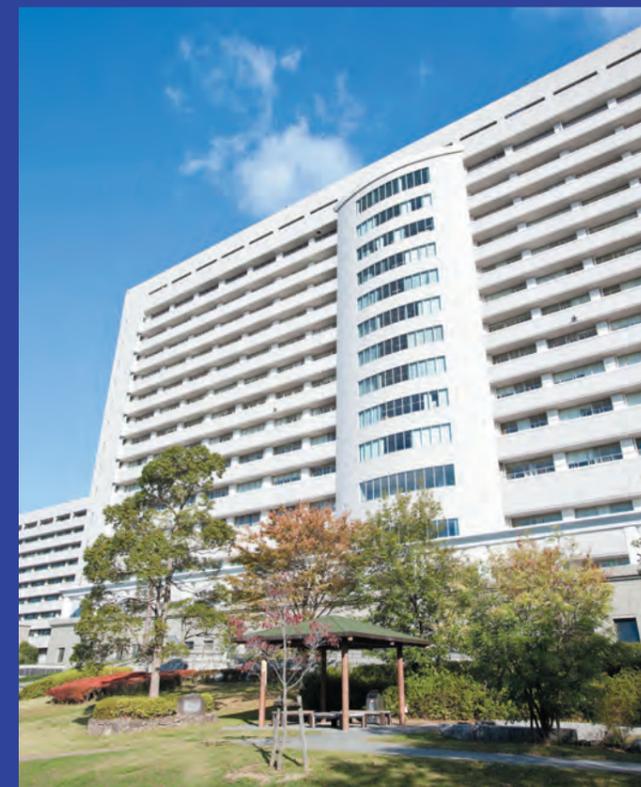
[オープンテラス]



[患者図書コーナー]



[正面玄関]



[病棟・診療棟外観]

Osaka University Hospital through Photographs 写真で見る大阪大学医学部附属病院



[特定集中治療室(高機能ICU)]



[血液浄化部]



[ドクターヘリ]



[小児医療センター]



[ホスピタルパーク]



[ホスピタルパーク]



[高精細画像CT]



[入退院センター]



[手術支援ロボット ダヴィンチ]



[高度救命救急センター 血管造影室]



[オンコロジーセンター棟抗がん剤調製室]



[治療コーナー・臨床研究相談窓口]